

＜展示会報告＞

広島城パネル展 ―絵葉書や絵図からみる広島城の移り変わり―

1 趣旨

広島城は、天正 17（1589）年、毛利輝元によって築かれ、江戸時代は藩主の居所・藩政の中心としての役割を果たした。明治初期には鎮台が、日清戦争時には大本営が設けられるなど、軍の施設が次々と設置され、軍都広島の特徴となった。一方、藩政時代の建造物の多くは壊されたり、火災に遭うなどして姿を消したが、築城時の様式を残す天守閣（大天守）や城門の一部等は被爆前まで残り、城下町広島の歴史を伝える遺跡・名所として市民に親しまれた。

当館では令和 2 年 6 月から、Web 上に所蔵画像等をテーマ別に紹介する「デジタルギャラリー」を開設している。

このパネル展ではデジタルギャラリーで公開した広島城の写真・絵葉書を中心に、所蔵する絵図や地図等も交え、広島城の移り変わりをたどることとした。

2 展示概要

(1) 展示会場

広島市公文書館 8 階研修・会議室（「臨時閲覧室」）および 8 階廊下

(2) 展示期間

令和 3 年 6 月 21 日（月）～ 10 月 1 日（金）

(3) 入場者数（期間中の来館者数）

434 人

(4) 展示資料点数

全 30 点

通常の展示会は 7 階のロビーと閲覧室で開催するが、令和 3 年 1 月に閲覧室の空調設備が故障したため、室温が高くなる夏季（6～9 月）は、閲覧室機能を 8 階の研修・会議室に移転させ、「臨時閲覧室」とした。当初、伝染性の疾病に関する文書資料等を紹介する展示会を予定していたが、「臨時閲覧室」には展示ケースが置けないことから、写真資料等を紹介するこの「パネル展」に変更し、展示点数も抑えて開催した。

開始時期は、6 月 1 日からとしていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い緊急事態宣言が 5 月 17 日に発令され、臨時休館（閲覧業務を休止）することとなったため、宣言解除後に変更した。展示開始後も再度緊急事態宣言が発令され、8 月 27 日から 9 月 30 日まで臨時休館したため、実質的な展示期間は 46 日間であった。



写真 1 展示会ポスター



写真 2 展示会場風景（臨時閲覧室内）

3 展示の内容

この展示会では、紹介した資料をより多くの方に利用していただくことも目標としていたため、他施設の資料は最小限に止め、当館が所蔵し、画像データを提供できる資料を中心に組み立てた。

最初に広島城の歴史や概要について説明を行い、①戦前の広島城、②城郭の変遷、③広島城の天守閣、④広島城の門、⑤広島大本営、⑥戦後の広島城の六つのコーナーに分けて展示を行った。

当初、戦後は対象としていなかったが、被爆後、建物が何もない状態から天守閣が復元され遺構が整備されていく過程が、市広報課が撮影した写真に残されていたことから、これらの写真も紹介することにした。また、展示物だけでは説明しきれない広島城の歴史を補足するため、築城前から現在までの主要なできごとをまとめた年表を最後に配置した。

① 戦前の広島城

広島城は、もともと外堀・中堀・内堀の三重の堀に囲まれた平城で、広さは、約 1 キロ四方、広さ 90 万平方メートルの大城郭であった。しかし、城内にあった御殿等の建物は明治維新後比較的早い時期に失われ、明治 5（1872）年からは門や櫓の解体がはじまり、鎮台をはじめとする軍事関係施設の設営も相まって、明治期には江戸時代の様子を伝える建造物の多くがすでに失われていた。

被爆前まで創建当時の姿を残していた大天守や表御門等も、原爆の爆風等により倒壊、焼失するなどして失われた。さらに堀が埋め立てられるなど、現在広島城跡として残っているのは、最も内側の内堀の中だけである。その姿からは往時の広島城の姿や城下町の広さは想像できない。



写真 3 軍事施設が密集する広島城付近 昭和 2 年（1927 年）

そこで、最初に写真で城郭の姿を振り返ることにした。昭和初期に撮影されたものだが、広島城の本丸、内堀、その周辺に軍事施設が集中する様子が分かる写真【写真 3】を紹介した。

② 城郭の変遷

堀や本川に囲まれていた広島城域は、堀や運河は道路に、城内の屋敷跡等は官公庁、公営住宅、商業施設、文化・スポーツ施設等になり、今の街の風景から藩政期の「城下町」の姿を思い起こすのは難しい。

そこで、城を中心に侍屋敷、町人町や寺が置かれていた城下町広島の様子がよく分かる資料として、最初に江戸中期（正徳年間～享保初頭）の城下町の絵図「広島城下町絵図（原本広島城所蔵）」を紹介した。

続いて、明治初期の藩士の屋敷や門、郭等の施設の様子が分かる「芸藩広島城下之要図」から、城郭部分の絵図【写真 4】を選んで紹介した。そのほか、現在はバス通りになっている堀「八丁堀」の写真や、城郭部分の変遷をたどることができる市街地図を紹介した【写真 11】。



写真 4 「芸藩広島城下之要図」より城内

③ 広島城の天守閣

被爆前まで残っていた天守閣は、昭和6（1931）年に国宝に指定され、史跡として市民に親しまれた。名所絵葉書にも組み込まれ、写真が多く残っているため、外観は、絵葉書や市販プリントで紹介した。また市民が撮影した写真の中から、撮影時期が正確に分かるものをいくつか紹介した。

一方、内部の写真はほとんど残されておらず、戦前の刊行物に掲載されているもの【写真5】を紹介した。

天守閣内部や個人撮影の天守閣入り口付近の写真は、これまで公開される機会が少なかったため、来館者に好評だった。



写真5
天守閣第二層内部

④ 広島城の門

明治以後も残った建造物には、天守閣の他に表御門、中御門と裏御門の一部がある。これらの門のうち、写真や絵葉書があるものについては、代表的なもの、あるいはより精細なものを選んで紹介した。また、明治初期に作成された「芸藩広島城下之要図」を元に、当時残っていた門とその位置をパネルで示した【写真6】。

絵葉書等では流布していない、個人撮影による中御門（鉄御門）の鉄の鉤が分かる写真は来館者の注目を集めた。

⑤ 広島大本営跡

明治27（1894）年、日清戦争が始まると、大型船が利用できる港を有し、大量輸送ができる鉄道が開通していた広島は、大陸への出兵基地となり、同年9月15日、明治天皇とともに大本営（戦時の最高統帥機関）が広島城内に移った。旧大本



写真6 広島城の門コーナー展示風景（写真は渡辺襄撮影）

営の建物は、日清戦争後も保存されることになり、大正15（1926）年、史跡に指定された。建物は被爆により焼失したが、土台の礎石や池等の石造物は今も残っている。

そうした被爆前後の姿が比較できるよう、名所絵葉書に残されている大本営の姿【写真7】とともに、戦後の姿を伝える写真【写真8】も紹介した。

⑥ 戦後の広島城

原爆により、広島城の天守閣は倒壊し、表御門、中御門、旧広島大本営等の建造物は焼失し、石垣や礎石だけが残った。

昭和26（1951）年、広島国体に合わせて開催された体育文化博覧会の会場として仮設の天守閣が建設され、同28年には、城跡が国の史跡に指定された。その後天守閣再建の機運が高まり、昭和33年4月の広島復興大博覧会開催に合わせて、コ



写真7 旧大本営前の噴水池「桜の池」(昭和戦前発行 絵葉書)



写真8 旧大本営前の噴水池「桜の池」
(昭和40年頃 広島市広報課撮影)

ンクリート造の天守閣を建設することが決定され、博覧会開催直前の 3 月に復元された。

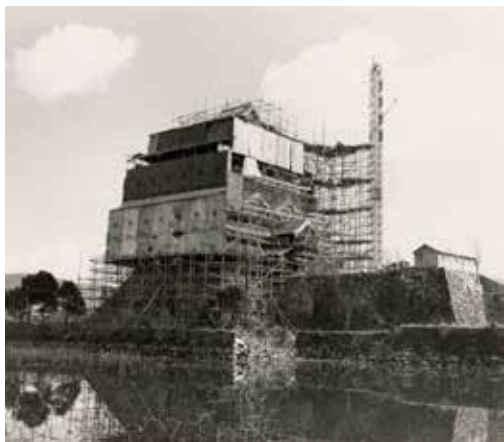


写真 9 復元工事中の広島城天守閣 昭和 33 年撮影

ここでは、建物が全く見えない本丸（昭和 26 年頃）、樹木が茂り始めた旧大本営跡付近（昭和 27 年頃）、天守閣復元工事（昭和 33 年頃）【写真 9】、復元した天守閣（昭和 33 年頃）を撮影した写真を、時系列に並べて紹介した。

展示パネルの最後に、毛利輝元が築城に着手した天正 17 年から 400 年間の出来事を、明治以降を中心にまとめた年表を作成して配置した。



写真 10 廊下「戦後の広島城」展示風景

3 パネル展方式で開催する上での工夫

「パネル展」では、原本でなく複製を展示するため、資料を選択する際は、貴重さ、希少さを重視するのではなく、分かりやすく情報を伝えることができる資料、じっくり見ると発見のある資料を選択するよう心掛けた。

・絵図の活用

近世の広島城の建造物は明治期にその多くが失われていた。加えて、わずかに残っていた建造物

も原爆の爆風や熱線により倒壊または焼失した。そのため、天守閣内部や郭、明治期に失われた小天守等の施設、城下町のなごりを伝える写真はほとんど残されていない。

そこで、「城下町」の姿が具体的にイメージできるように、江戸時代の武家屋敷の配置や門や櫓、御殿等の城内の様子を詳細に伝える明治初期作成の「芸藩広島城下之要図」【写真 4】を活用した。

・市街地図の活用

明治以降の城内および城周辺の変化をたどるため、市販の市街地図を活用した【写真 11】。市街地図には、その時々^{くるわ}の施設、道路や橋などの状態が細かく記録されている。例えば、堀や運河が埋め立てられ、道路や路面電車の軌道が作られていく様子や、軍事施設が場内や市中に設置されていく様子もたどることができる。写真で説明することができない街の細かな変化を伝えるにはとても役立った。

地図の選択に当たっては、転換期となる時期の地図を選択するよう心掛けた。すなわち、①市制施行の 2 年前の地図（明治 20 年）、②日清戦争により城内に大本営が置かれた時期の地図（明治 27 年）、③日露戦争時の地図（明治 38 年）、④堀が埋め立てられ道路や軌道が整備された後の地図（昭和 5 年）、⑤戦局が進み、検閲が厳しくなった時期の地図（昭和 15 年）である。

そのままでは比較しにくいため、城郭部分を中心にトリミングし、拡大して紹介する方法をとった。

・写真選択の工夫

広島城の遺構については、名所絵葉書が数多く



写真 11 「城郭の変遷」コーナーの市街地図

刊行されているが、被写体やアングルが似ているものが多い。今回は、できるだけ個人が撮影したものや市史編さんに使用した写真を用いて、絵葉書だけでは確認できない中御門（鉄御門）、天守閣外観、天守閣内部の様子等を紹介するよう心掛けた。

史跡となった天守閣や大本営跡といった多種多様な絵葉書がある遺構では、その場に行ってみて当時の様子を思い描けるよう、その建物だけでなく、目印になる施設や建物が写り込んでいる写真を選択するよう心掛けた。

4 新型コロナウイルス感染症予防対策

開始前に緊急事態宣言が発令されるなど、感染が拡大した時期であったため、展示に限らず閲覧室や事務室でも次のような感染拡大防止対策を行った。

- ・カウンター前にビニールカーテンを設置
- ・エレベーター前、各室入り口にアルコール消毒薬を設置
- ・一階エレベーター前、各室入り口に感染拡大防止のための協力を依頼するポスターを掲示
- ・各室の入り口を開放し、常時換気を実施
- ・閲覧機の中央に透明な仕切りを設置
- ・利用終了後の机、椅子、筆記用具等はその都度消毒



写真 12
廊下のアルコール消毒装置

5 おわりに

展示を終えて感じたのは、広島市民にとって広島城は、城下町というアイデンティティーにつながる大切な場所・ものなのだということだった。「城下町」の姿を伝える資料を熱心に見る方が多かった。

公文書館の展示というと、文書の原本を展示し、その位置づけや内容をテーマに沿って解説するものが多い。今回は原本ではなく複製のみで構成する展示会であったため、開始前は、来館者が満足

されないのではないかと心配していた。ところが、始まってみると、貴重な近世の絵図等と同じくらい、城郭部分を拡大・トリミングして並べた市販の市街地図が注目を集め、「城郭の変遷」は人気のコーナーとなった。150 年前までは、広島は街は確かに城下町であったこと、その骨格であった堀や運河が埋め立てられ現在の道路や電車軌道に変わったこと、城郭に軍関係施設が配置されていたことが、イメージしやすかったのだろう。写真を補う意図で使用した市街地図がここまで来館者を惹きつけるとは意外だった。

また、見慣れた絵葉書も、複製して拡大すると、見えなかったものが見えてくるという発見もあった。天守閣第5層の華頭窓も拡大すると、閉まっているものと開いているものがあり、違いに初めて気付かされた。

一方、学術刊行物や個人撮影による天守閣内部や中御門の写真は、やはり注目を集めた。絵葉書とは異なる着眼点で撮影されており、新鮮だったようだ。天守内部の写真はあまりにも少なく、今後の収集が課題である。

この展示会の一番の収穫は、「複製」も工夫次第で、十分活用できると分かったことだろう。絵葉書や写真の原本は時代の空気をまとい、質感や色など、複製にはない魅力がある。しかし、複製も、拡大・トリミング・回転等の技術を使って、伝えたいものを見せる工夫をすれば、原本にない魅力を発揮するということを実感した。

展示した資料は、以下の URL（Web 展示会『広島城パネル展』）で公開している。ぜひアクセスして御覧いただきたい。これらの資料が広島城の歴史への理解を深め、伝えることに活用されることを期待したい。

(<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/5/233845.html>)

「広島城パネル展 ～絵葉書や絵図からみる広島城の移り変わり～」展示資料一覧

No	タイトル	内容等
1	軍事施設が密集する広島城付近【写真】	広島城付近を上空から撮影した航空写真。広島城内に軍関係施設が密集している様子が分かる。昭和 2（1927）年撮影
2	広島城下町絵図 （『図説広島市史』付図）	正徳年間から享保初頭（1711～1720）頃までの城下の様子を記した絵図。城内を中心に侍屋敷は白、町人町は黒、寺院は赤で記されている。原本広島城所蔵
3	「芸藩広島城下之要図」より 西の丸付近、城内	「芸藩広島城下之要図」 城下を 8 つの区画に分けて描いた詳細な絵図。藩士の屋敷には貼紙で氏名が記されている。原本は折本仕立て。明治初期
4		【西の丸付近】 本川と外堀に挟まれた西の丸付近の絵図。普作御役所の木蔵や御召雁木（おめしがんぎ）が書き込まれている。
4		【城内】 内堀に囲まれた本丸・二の丸、中堀に囲まれた三の丸・大手郭・北の郭などの城内の絵図
5	広島城外堀（京口門付近）【絵葉書】	外堀の埋立工事は明治 42（1909）年 6 月から開始された。これは埋め立てられる前の八丁堀（京口門付近）の様子を撮影したもの。埋め立てられた堀は、大正元（1912）年に白島線の電車通りになった。電車通りは昭和 27（1952）年、現在の位置に移設された。明治期発行
6	広島市街明細地図 明治 27 年	日清戦争が始まった明治 27（1894）年の 12 月に作成された地図。広島城本丸には「本営」、三の丸には「帝国議会仮議院」など、日清戦争当時の施設名が記されている。明治 27 年 12 月発行
7	広島市街明細地図 明治 20 年（部分）	本丸には（広島）鎮台本営（明治 21（1888）年に第五師団に改称）、三の丸には十一連隊営所、大手郭一帯には練兵場、西の丸には輜重兵営所などの施設名が記され、城内はほぼ軍の施設で占められている。明治 20 年 11 月発行
8	広島市街業務案内地図 明治 38 年（部分）	明治 37（1904）年の日露戦争開戦直後に作成された地図。本丸には第五師団司令部、三の丸には第十一連隊兵営、大手郭には第九旅団司令部や西練兵場、西の丸には輜重兵営や衛戍病院等の施設名が記されている。明治 38 年 6 月発行
9	大広島市街都市計画地域別街路網図 昭和 5 年（部分）	満州事変が始まる前年に発行された地図。本丸には旧大本営や五師団司令部、三の丸には歩兵第十一連隊、大手郭には旅団連隊区司令部、西の丸には輜重兵第五大隊、衛戍病院等の軍の施設名が記されている。昭和 5（1930）年 12 月 大日本東京交通社出張所編・発行
10	最新広島市街地図 昭和 15 年（部分）	戦局が進む昭和 15（1940）年に作成された地図。広島城をはじめ東練兵場、被服支廠、糧秣支廠、兵器支廠などの軍関係の施設は白抜きにされている。昭和 15 年 8 月 金正堂書店編・発行
11	天守閣正面【写真】	南小天守跡から撮影された天守閣南面の写真。第二層から第四層までの突き上げ戸が開けられている様子や、天守閣の入口に改装された南小天守との間の渡櫓（渡り廊下）の一部が見える。昭和戦前（昭和 11 年以降）
12	天守閣第一層南西外観【写真】	天守台から第一層の南西角を撮影した写真。突き上げ戸や鉄砲狭間が確認できる。昭和 11（1936）年 10 月 4 日 渡辺襄撮影
13	天守閣第二層内部【写真】	南側の武者走りを西側から東側に向かって撮影した写真。手斧で削っただけの湾曲した大きな梁、白壁に設けられた鉄砲狭間や格子窓が確認できる。昭和初期撮影
14	天守閣第三層内部【写真】	東側の武者走りから撮影した内部の写真。第二層から上がる階段と第四層に上がる階段が写っている。昭和初期撮影
15	天守閣第五層内部【写真】	外壁との間に設けられた廻縁、廻縁に出る出入口とその両側に設けられた釣鐘型の華頭窓などが写っている。出入口の外の高欄も確認できる。昭和初期撮影
16	天守閣西【絵葉書】	天守閣の西面を撮影したもの。右側には天守閣第一層の入口として残された南小天守との間の渡櫓の一部が写っている。第一層の左端には防御のために設けられた開口部（石落とし）が見える。昭和初期 広島□○堂発行
17	天守閣南東【絵葉書】	本丸から撮影された天守閣南東面の写真。中央には大天守と東小天守の間の渡櫓の一部が写っている。大正期 広島□○堂発行
18	天守閣北東【絵葉書】	天守閣の北東面を撮影したもの。東小天守との間の渡櫓の一部や釣鐘型が特徴的な第五層の華頭窓が確認できる。昭和戦前 広島□○堂発行
19	中御門【写真】	中御門は本丸南側に位置した門で、二の丸から本丸に入る入口に当たる。これは中御門を二の丸側から撮影したもの。扉や門柱に鉄板が打ち付けられていたことから「鉄御門」と呼ばれていた。昭和 11（1936）年 10 月 4 日 渡辺襄撮影

No	タイトル	内容等
20	表御門（師団司令部入口【写真】）	二の丸に設けられた表御門（橋御門）を写したもの。正面の門柱には「第五師団司令部」の表札が架けられている。被爆まで残っていた多門櫓や太鼓櫓も写っている。昭和戦前
21	広島大本営跡と天守閣【絵葉書】	広島城本丸下段から上段の広島大本営跡を撮影した絵葉書。上段に向かう緩やかなスロープの両側は植栽で飾られ、左奥には天守閣が写っている。明治～大正期
22	広島大本営跡【絵葉書】	左から天守閣、その下に昭憲皇太后御座所、右側に旧広島大本営の建物が写っている。大正期 広島□○堂発行
23	広島大本営跡【絵葉書】	日清戦争時に広島に置かれた広島大本営には、明治 10（1925）年に広島鎮台司令部として建てられたこの 2 階建ての木造洋館が使用された。大正 15（1925）年史蹟名勝天然記念物に指定。昭和戦前
24	広島大本営跡【写真】	旧広島大本営の建物は被爆により倒壊したが、土台部分は残った。これは昭和 42（1967）年 4 月に広島市広報課が撮影したもの。天守閣を背景に土台とその横の大正 15（1925）年の史蹟名勝天然記念物指定の由来を記した石碑が写っている。
25	旧大本営前の噴水池「桜の池」【絵葉書】	旧広島大本営の建物とその前の噴水池「桜の池」が写っている。この池は、明治 31（1898）年、旧城内に広島軍用水道の鉄管を布設するのに伴い築造された。大正 14（1925）年に「桜の池」と命名された。昭和戦前
26	整備された広島城跡の池【写真】	広島大本営跡の前にあった桜の池の遺構は、戦後広島城跡の公園の一部として整備された。昭和 40（1965）年頃 広島市広報課撮影
27	戦災後の広島城跡【写真】 （『昭和 25 年市勢要覧』より）	昭和 26（1951）年 6 月発行の『市勢要覧』に掲載されたもの。本丸や天守台には建物はなく、焼け残った樹木と石垣だけが写っている。
28	昭和 27 年頃の広島城跡【写真】（『昭和 27 年市勢要覧』より）	昭和 28（1953）年 10 月発行の『市勢要覧』に掲載されたもの。水がかれた桜の池の一部や広島大本営跡の土台、天守台の石垣が写っている。
29	復元工事中の広島城天守閣 【写真】	広島城天守閣の復元工事は、昭和 32（1957）年 10 月から始められ、翌 33 年 3 月に竣工した。この写真は 33 年 2 月に撮影されたもの。足場の上部に天守閣第五層の屋根の部分が見える。完成した天守閣は、4 月に開催された広島復興大博覧会の第三会場として使用された。
30	復元された広島城天守閣【写真】	昭和 33（1958）年に復元された天守閣を三の丸から撮影したもの。本丸南西角の石垣、その上には同 31 年に再建された護国神社の屋根と千木が見える。昭和 33 年 8 月 広島市広報課撮影

※所蔵・提供等の記載のないものは、当館所蔵資料である。

※絵葉書の発行年は、袋、検閲日または押印されているスタンプ等で特定できるものは、その年を採用している。

- ・詳細な年次が不明であり、当館が推定したものについては、「明治期」「大正期」等大まかに記している。
- ・昭和は、昭和 20（1945）年 8 月 15 日以前を戦前、16 日以降を戦後としている。
- ・なお、絵葉書は、古い写真を使用して作成したものもあるため、発行時期と撮影時期は必ずしも一致しない。

主な参考文献

- ・広島市役所編・発行『広島市史 第 4 巻』1925 年
- ・広島市役所編・発行『新修広島市史』第 2 巻 政治史編、同第 3 巻 社会経済史編、同第 4 巻 文化風俗史編 1958 年～1959 年
- ・広島市編・発行『広島新史 都市文化編』1983 年
- ・広島市編・発行『図説広島市史』1989 年
- ・広島市教育委員会社会教育部管理課編・発行『史跡広島城跡資料集成 第一巻』1989 年
- ・広島市立中央図書館編・発行『広島城下町絵図集成』1990 年
- ・（財）広島市歴史科学教育事業団 広島城編・発行『広島城の堀』1994 年
- ・（財）広島市文化財団 広島城編・発行『広島城の近代』2008 年
- ・（財）広島市文化財団 広島城編・発行『広島城壊滅！一原爆被害の実態』2010 年
- ・（財）広島市未来都市創造財団 広島城編・発行『広島城絵図集成』2013 年
- ・（財）広島市未来都市創造財団 広島城編『広島城総合案内』広島市市民局文化スポーツ部文化振興課発行 2013 年
- ・（公財）広島市文化財団 広島城編・発行『お城ってなあに？広島城で発見！ お城入門』2018 年
- ・広島市郷土資料館編・発行『明治時代の広島』2018 年
- ・『広島県の地名』平凡社発行 1982 年
- ・『広島県大百科事典 上・下』中国新聞社編・発行 1982 年
- ・『角川日本地名大辞典 34 広島県』角川書店発行 1987 年